

八戸 3月号 レポート

平成27年2月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	北海道新幹線開業後も八戸駅停車へ 八戸市長がJR北海道本社へ要望
2	八戸市2015年度当初予算案 初の900億円台
3	津波観測ケーブル敷設 八戸地上局へのケーブル陸揚げを公開
4	八戸市が八戸駅西口整備案を了承 2017年度内の完成目指す
5	八戸市 プレミアム付き商品券発行へ

【産業】

No.	項目
6	「(仮称)八戸菊研究会」発足 「菊の里」再興へ
7	伝統野菜「糠塚きゅうり」 温室栽培で早期出荷へ

【地域】

No.	項目
8	現代風アレンジした「殿様えんぶり御膳」 市内料理店で再現
9	全国朝市サミット 10月に八戸で初開催
10	八戸学院大 インドの大学と学術交流協定を締結
11	三八五交通が旅行商品開発 「八戸せんべい汁観光タクシー」
12	八戸せんべい汁を福岡県田川市の学校給食に提供
13	重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」 ～北国に春を呼ぶ伝統芸能を満喫～
14	「メドツが出るぞ」の名物看板 用水路埋め立てで近く撤去
15	冬の蕨島に「異変」 ウミネコ多数越冬
16	「日曜新鮮市」 出店者の高齢化理由で今年は見送り

【文化・スポーツ】

No.	項目
17	八戸レッズ(女子アイスホッケーチーム)所属の2選手が世界選手権出場
18	映画「さいはてにて」 大久保さん(八戸市出身)初のプロデューサー
19	「屋内スケート場の未来を語る」 トークイベントで金メダリスト清水宏保さん講演
20	宝塚歌劇団の北翔海莉さん(八戸市生まれ) 星組トップスターに!
21	八戸舞台のラフストーリー「ライアの祈り」初の試写会
22	世界最長のムカデ滑走 ギネス世界記録認定!
23	青森県近代文学館 木村友祐さん(八戸市出身)の特集コーナー開設


【県内】

No.	項目
24	2015年度青森県新規事業 「自立相談窓口」設置
25	八戸環状線中居林工区 3月31日開通

【 行政 】

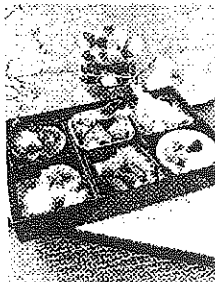
No.	レポート
1	<p>北海道新幹線開業後も八戸駅停車へ 八戸市長がJR北海道本社へ要望</p> <p>青森県を走る新幹線のうち、現在は9割が八戸駅に停車するが、北海道新幹線開業後は東京―新函館北斗間の所要時間を短くするため、八戸を素通りするケースが増える懸念がある。そのため、八戸市の小林眞市長は2月6日、札幌市内のJR北海道本社を訪れ、2016年春の北海道新幹線開業後も、八戸駅への新幹線の停車本数を十分確保するよう要望した。また、北海道から八戸地域を周遊する旅行商品の企画も併せて求めた。</p>
2	<p>八戸市2015年度当初予算案 初の900億円台</p> <p>八戸市が2015年度当初予算案を発表した。一般会計は総額974億円と、当初予算として初の900億円台となり、過去最高だった2014年度当初を11.5%上回った。東日本大震災関連に90億1904万円を盛り、仮称・多賀地区多目的運動場や津波避難路整備をはじめとする復興関連事業、西白山台小建設などの大型事業が集中し、全体額を押し上げた。</p>
3	<p>津波観測ケーブル敷設 八戸地上局へのケーブル陸揚げを公開</p> <p>東日本の太平洋沖合いの海底に光ファイバーケーブルを敷設し、より高い精度で地震や津波を観測するプロジェクトが進んでいる。「防災科学技術研究所」(つくば市)の日本海溝海底地震津波観測網(S-net)で、北海道から千葉県に至る海底5700キロに、ケーブルと地震計、津波計が一体となった150の観測点を設ける。2月21日には地上局の一つに設定している鮫町の八戸漁港内で、ケーブルの陸揚げ作業を公開した。八戸市など6カ所の地上局を通じて研究所や気象庁などと結び、津波の高さなど高精度の情報を迅速に伝達することで、早期の避難や被害の軽減につなげる。</p>
4	<p>八戸市が八戸駅西口整備案を了承 2017年度内の完成目指す</p> <p>八戸市は2月23日、八戸駅前広場整備基本計画検討委員会の第3回会合を開き、駅西口の整備計画案をおおむね了承した。西口側にシンボルロードとして建設予定の都市計画道路「八戸駅西中央通り線」との接続を重視し、一体化した整備を進める方針。送り迎えなど短時間の利用専用の駐車場や多目的広場などを設ける。2016年度にも工事に着手。2017年度内の完成を目指す。</p>
5	<p>八戸市 プレミアム付き商品券発行へ</p> <p>国が「地方創生」の目玉の一つに掲げ、新たな交付金を活用したプレミアム付き商品券の発行について、八戸市の小林眞市長は、2割の上乗せ率で発行する意向を明らかにした。これとは別に、子育て世帯や低所得者世帯に対する商品券の配布も検討しており、地域での消費喚起を図る方針。プレミアム商品券は1万2千円分を1セットとし、1万円で販売する。2009年の前は、10万セットがすぐに売り切れたため、発行数を増やし、1人が購入できる数も制限する予定。</p>

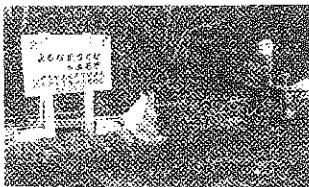
【 産業 】

No.	レポート
6	<p>「(仮称)八戸菊研究会」発足 「菊の里」再興へ</p> <p>三八地域に伝わる食用菊や鑑賞菊の歴史と伝統を後世に残し、産地復活を目指すため、有志による「(仮称)八戸菊研究会」が2月5日に発足し、市内で初の例会を開いた。食用菊の生産は1965～84年ごろが最盛期とされるが、現状は資料や文献はほとんど残っていない。これまでの生産や加工などの実態を把握した上で、「菊の里」の再興計画策定を視野に入れ動き出す。</p> 

7	<p>伝統野菜「糠塚きゅうり」 温室栽培で早期出荷へ</p> <p>八戸市の伝統野菜「糠塚きゅうり」について、市は2015年度から新たに市農業経営振興センターの温室で、早期出荷の実現に向けた栽培調査に取り組む。従来の収穫期は6月中旬～8月中旬だが、1カ月前倒した5月中旬からできるようにする。栽培期間の拡大による生産量の増加に加え、品質や価格向上につなげてブランド化を推進したい考えである。</p>
---	--


【 地 域 】

No.	レポート
8	<p>現代風にアレンジした「殿様えんぶり御膳」 市内料理店で再現</p> <p>八戸藩9代藩主の南部信順公が御前えんぶりの日に食した料理を現代風に再現した「殿様えんぶり御膳」「えんぶり姫御膳」が2月1日から28日まで、市内の日本料理店など12店舗で提供された。料理や盛り付けは店によって異なったが、ホッキガイをえんぶりの太夫がかぶる烏帽子に見立てた「烏帽子北寄」、生干しタラや干し菜を使った「えんぶり豊年汁」の2品は共通メニューとなっており、八戸えんぶりの観光客らは地域産の食材をふんだんに使った彩り豊かなお膳を楽しんだ。</p> 
9	<p>全国朝市サミット 10月に八戸で初開催</p> <p>朝市の運営団体が集まる「第20回全国朝市サミット」が10月17、18日の両日、八戸市で初開催されることになった。石川県輪島市、長崎県佐世保市、神奈川県三浦市など全国15団体の朝市関係者が参加し、意見交換するほか、館鼻岸壁の朝市を視察する。他県では出店者の減少や高齢化が深刻となっており、毎回3万～5万人の来場者でにぎわう館鼻は「今、最も活気のある朝市」として注目を集めているという。</p>
10	<p>八戸学院大 インドの大学と学術交流協定を締結</p> <p>八戸学院大が、インドのカリンガ産業技術大(KIIT)と学術交流協定を締結した。今後、2大学は共同研究や文化交流、教員の交換などに取り組む。八戸学院大と海外の大学との協定締結は米国、韓国の大学に続き3校目。KIITが日本の大学との学術交流協定を結ぶのは初めてとなる。KIITはインド東海岸のオリッサ州にある、1992年創設の総合私立大で、学生数は2万3500人。米国やオーストラリア、ナイジェリアなど世界約20カ国から約200人の留学生を受け入れているという。</p>
11	<p>三八五交通が旅行商品開発 「八戸せんべい汁観光タクシー」</p> <p>三八五交通は、八戸せんべい汁をキーワードに、タクシーで八戸市内を巡る旅行商品「八戸せんべい汁観光タクシー」を開発し、予約を受け付けている。2～4人の少人数向けで、中心街を起点にした朝と昼の2コースを設定。種差海岸や朝市などの体験も盛り込んだ。所要時間は2～3時間。4人で参加した場合は、朝コースが1人3,500円(税込み)、昼コースが1人5,900円(同)となる。2日前までの予約が必要。</p>
12	<p>八戸せんべい汁を福岡県田川市の学校給食に提供</p> <p>「B-1グランプリ」が縁となり、福岡県田川市の全小学校9校で、「八戸せんべい汁」が給食のメイン献立として子どもたちに提供された。同市のまちおこし団体の池田智子さんが、「八戸せんべい汁研究所」からレシピ提供などの協力を受け、八戸の味を届けた。池田さんは「子どもたちには八戸がどこにあるかと、思い浮かべてもらう社会科の勉強にもなった。また、せんべい汁は、こちらではけっこう知名度が高く、給食で提供したのをきっかけに家庭でも試してみようという話題になってくれた」と話している。</p>

13	<p>重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」 ～北国に春を呼ぶ伝統芸能を満喫～</p> <p>国の重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」が2月20日、4日間の日程を終えて閉幕した。期間中の入り込み数は24万9千人で、開幕前の大雪で客足が落ち込んだ昨年を9万2千人上回った。初日の一斉摺りをはじめ、ツアー客の入り込みは堅調。写真愛好家を中心に常連の個人客も例年並みに訪れ、会場では太夫や舞い手に熱心にカメラを構える光景が目立った。市庁前で行われた一般公開のステージでは太夫が躍動感あふれる摺りを見せ詰め掛けた観客は北国に春を呼ぶ伝統芸能を満喫した。</p>
14	<p>“メドツが出るぞ” の名物看板 用水路埋め立てで近く撤去</p> <p>田向地区の館越山の麓にある「メドツが出るぞ」との看板が近日中に撤去されることが分かった。メドツとは、八戸地方の方言でカッパを意味し、人や馬を水中に引き込むとの言い伝えがある。この伝説の妖怪を利用して、近くの用水路での水難事故防止を訴える看板は、約40年間、地域の“名物”として住民に親しまれてきたが、危険の元となっていた用水路が埋め立てられるため、その役割を終える。住民からは「無くなるのは寂しい」と惜しむ声が聞かれた。</p> 
15	<p>冬の蕪島に“異変” ウミネコ多数越冬</p> <p>ウミネコの繁殖地として知られる蕪島で、“異変”が起きている。2月下旬は例年、南方で過ごしたウミネコが徐々に飛来し始める時期だが、監視員によると、2月27日現在ですでに1万羽以上がいるという。この冬を蕪島で越冬したウミネコが多いと見られている。約20年前にも、ウミネコの越冬を確認しているが、当時は天候悪化による一時的な滞在とみられ、「今回の長期間の滞在は不思議だ。餌となる魚の群れの動きに左右された可能性がある」と専門家は推測している。</p>
16	<p>「日曜新鮮市」 出店者の高齢化理由で今年は見送り</p> <p>湊町のJR陸奥湊駅前で4～12月の毎月第1日曜に開かれてきた「日曜新鮮市」が、今年は集客の目玉となる市営魚菜市場が、出店者の高齢化を理由に参加を見送ったため、開催されない見通しになった。出店者の多くが60～70代となり「体力的につらくなった。日曜は休みたい」との声が強かったという。今後はイベントや大型連休に臨時開催する方針。月曜～土曜(第2を除く)の営業は、これまで通り続ける。</p>

【文化・スポーツ】

No.	レポート
17	<p>八戸レッズ(女子アイスホッケーチーム) 所属の2選手が世界選手権出場</p> <p>八戸市の女子アイスホッケーチーム「八戸レッズ」に所属する日向蘭(湊中3年)と近藤鈴華(江陽中2年)が1月、米ニューヨーク州バッファロー市で行われた女子U18(18歳以下)世界選手権に日本代表として出場した。日本は5戦全敗で1部に当たるトップディビジョンからディビジョンIへ降格となったが、世界トップレベルの大会を初めて経験した2人は「練習を重ね、もっと世界で通用するような選手になりたい」と志を新たにした。</p>
18	<p>映画「さいはてにて」 大久保さん(八戸市出身)初のプロデューサー</p> <p>2月28日から全国公開されている映画「さいはてにて」。舟小屋を改装したコーヒー店を舞台に女性同士の友情を描く物語で、八戸市出身の大久保忠幸さんが初のプロデューサーを務めた。コーヒー豆の発送先として「八戸市尻内町」のフレーズも登場する。永作博美さん、佐々木希さんらが出演。国内だけでなく台湾や韓国、香港など14カ国で公開が決まっている。</p>

19	<p>「屋内スケート場の未来を語る」 トークイベントで金メダリスト清水宏保さん講演</p> <p>2月13日に、「八戸市屋内スケート場の未来を語る」と題したイベントが、長野五輪スピードスケート金メダリストの清水宏保さんを迎え、「はっち」で行われた。清水さんから参加者は、氷都八戸の競技人口底上げや、一線級で活躍できる選手育成、住民の健康増進につながるとして、同スケート場に強い期待感を示した。大勢の市民が世界のトップとして活躍した一流選手の講演を楽しみ、新たな施設への期待を膨らませた。</p>
20	<p>宝塚歌劇団の北翔海莉さん（八戸市生まれ） 星組トップスターに！</p> <p>宝塚歌劇団の星組次期トップスターに、現在「専科」に所属する北翔海莉（ほくしょうかいり）さんが今年5月11日に就任することが決まった。北翔さんの母親が八戸市出身で、自身も八戸市に帰省でたびたび訪れている。東日本大震災発生後の2011年3月下旬にも八戸を訪れ、沿岸部の被災状況を目の当たりにした。その後、身分を明かさずに、八戸市に300万円の義援金を寄付した。市内の有志が中心となり「北翔海莉を八戸から応援する会」を近く発足する予定。</p> 
21	<p>八戸舞台のラフストーリー「ライアの祈り」初の試写会</p> <p>八戸市が舞台の映画「ライアの祈り」の初の試写会が2月15日、フォーラム八戸で開かれ、関係者約130人が八戸の風景の中で繰り広げられる人間ドラマに見入った。鑑賞した小林眞市長は「すばらしい内容で、個人的にも好きな映画。市民の誇りにしたい」と称賛。県内で先行公開し、中国で開かれる上海国際映画祭に出品。その後、6月半ばに東京など全国で封切りとなる予定。</p>
22	<p>世界最長のムカデ滑走 ギネス世界記録認定！</p> <p>長根公園スケートリンクで、ギネス世界記録が生まれた。市民を中心に370人のスケート愛好者が連なって滑る「ムカデ滑走」で400メートルのリンクを1周。世界最長のアイススケーターの列として公式にギネス記録に認定された。従来の記録は252人（2008年、ロシア・ヴオトキンスク）で、これを大きく更新した。長根公園への屋内スケート場整備に向けて弾みをつけるとともに、慣れ親しんだリンクに感謝の気持ちを表すことを狙いに「氷の力2015実行委員会」が主催した。</p>
23	<p>青森県近代文学館 木村友祐さん（八戸市出身）の特集コーナー開設</p> <p>八戸市出身小説家木村友祐さんが、2011年3月に発生した東日本大震災と東京電力福島第1原発事故に影響を受けて執筆した小説「イサの氾濫」と「聖地Cs」を紹介する特集コーナーが、青森市の青森県近代文学館に開設された。木村さんは八戸市を舞台にして執筆した「イサの氾濫」で三島由紀夫賞候補になった。気鋭の作家の作品に触れようと、初日から多くのファンが足を運んでいる。3月31日まで。開館時間は午前9時～午後5時。入館は無料。</p>

【 県 内 】

No.	レポート
24	<p>2015年度青森県新規事業 「自立相談窓口」設置</p> <p>青森県は2015年度、失業者や引きこもりなど生活困窮者の自立促進に向け、さまざまな新規事業を展開する。経済的な支援策として県内6カ所に「自立相談窓口」を設置し、相談者の就労を進めるほか、生活費や家賃を補助する国の制度などを紹介する。ひとり親世帯の子どもへは、大学生や教員OBによる学習支援を行う。県の2015年度当初予算案に関連経費を盛り込む方針で、生活困窮者への支援を迅速かつ的確に進めることで、自立に必要な生活水準の向上を目指す。</p>
25	<p>八戸環状線中居林工区 3月31日開通</p> <p>青森県は、八戸市内で整備を進める主要地方道八戸環状線のうち、田向地区から中居林地区までの中居林工区が3月31日に開通すると発表した。同工区の完成で白銀地区から田面木地区までの約10キロがつながり、市街地の渋滞緩和に加えて、医療や観光面でのアクセスが飛躍的に向上すると期待される。</p>